春岡村の伝説＜曹洞宗宝積寺：なぜかアンパンマンなどが＞

アーバンみらいの入口に深作村の菩提寺宝積寺があります。門を入った突き当りにはアンパンマンの石地蔵が並んでいます。ショクパンマンやバイキンマンもいます。宝積寺開山の和尚は寛永六年（1629）入寂ということですから、江戸時代初期にはすでに寺はあったようです。本堂前には貞治３年（１３６４）の板碑があります。また南北朝時代初期の貞和三年（1347）銘の大きな板碑もあることから、中世にはすでに深作辺りは村落を形成していたと思われます。この大きな板碑は元々春岡駐在所（今は交番）の裏手小島家前にあったもので、関東大震災の時には激しい揺れをこの板碑につかまって凌いだそうです。天台宗の阿闍梨が母親の三十三回忌の供養として造立したもので、地上部分だけでも 189 ㎝の高さがあります。寺にはまた円空作の役行者（えんのぎょうじゃ）像もあります。　宝積寺は文化財だけでなく、村の菩提寺としてさまざまな役割を果たしていました。明治７年、寺に深作学校が設置され、明治２２年に清和尋常小学校となります。明治２５年春岡村が成立したので翌２６年には春岡尋常小学校と改称しました。その後校舎が手狭になったので明治３４年、現在の春岡小学校の地に移転しました。移転先は当初深作氷川神社付近を予定し整地も済んでいたのですが、「村の中央に建てろ」という声があり難航し、当時の村長の家が放火されるなど大変な騒ぎだったようです。（寺子屋は覚蔵院にありましたが宝積寺にはなかったようです）

（写真は貞和３年の板碑とアンパンマン）

また、明治２２年から大正１４年まで宝積寺に村役場が置かれました。コレラなどの伝染病の発生の際の患者の収容所や災害時の避難所の役割もありました。明治４３年８月の水害で荒川流域は未曽有の大洪水となりましたが、春岡村では罹災者６００人のうち３００人は丸ヶ崎の多聞院へ、１００名が宝積寺、岩槻方面へ、そして宮ヶ谷塔民家に２００人が避難したそうです。　（平山由喜）

※春野図書館では「春野の昔の写真展」を来年１月に予定しています。東三番街入居した頃のアーバンみらいや周辺の写真がありましたらぜひ拝借したいと思います。公開してもいいよ、という方は平山宅または直接図書館へ（担当は平山です）